

上越市立春日新田小学校（4年生） 出前講座「川の防災学習」を実施しました。

関川流域を襲った7.11水害から22年が経ちました。最近では、局地的な豪雨が全国各地で頻発していますが、関川流域では近年大きな水害もなく、子供たちは水害の恐ろしさをまだ経験していません。「川に親しみ、川を常に気にかける」ことが大切な一方で、「川の怖さや、水害時の行動などを学ぶ」ことが重要となってきます。

そこで、国土交通省高田河川国道事務所では、防災教育の専門家である上越教育大学大学院山縣教授の協力のもと、上越市立春日新田小学校4年生（4クラス・141名）を対象に、下記のとおり3回にわたる出前講座「川の防災学習」を実施しました。

【山縣耕太郎教授 プロフィール】

所属：上越教育大学大学院学校教育研究科社会系教育講座教授

専門は自然地理学（島弧火山発達史、第四紀環境変遷史など）。

上越教育大学が主催する出前講座では、「地域の災害を想定する」をテーマに防災教育を行っている。

第1回 テーマ「川の防災に関する基礎学習」

災害の種類、過去の水害、洪水が起きる理由、洪水の被害を防ぐ方法 等

日時：平成29年10月27日(金)3限10:35～11:20(3組)、4限11:25～12:10(4組)

平成29年10月31日(火)3限10:35～11:20(1組)、4限11:25～12:10(2組)

場所：春日新田小学校 第2多目的室

第2回 テーマ「川の防災に関する現地学習」

洪水時の危ない場所の確認と避難場所の説明、地元の水害体験者からの聞き取り 等

日時：平成29年11月2日(木)2・3限9:30～11:20(2組)、5・6限13:40～15:30(4組)

平成29年11月9日(木)2・3限9:30～11:20(1組)、5・6限13:40～15:30(3組)

場所：春日新田小学校周辺～関川（現地見学ルートは別紙-1のとおり）

第3回 テーマ「川の防災に関する自己学習」

通学路やその周辺の洪水時に危ない場所や避難場所をまとめる 等

日時：平成29年11月15日(水)3限10:35～11:20(3組)、4限11:25～12:10(1組)

平成29年11月16日(木)3限10:35～11:20(2組)、4限11:25～12:10(4組)

場所：春日新田小学校 第2多目的室、4年生教室



第1回講座風景



第2回講座風景



第3回講座風景

小学校の学習支援『川学習の出前講座』

第1回「川の防災に関する基礎学習」実施結果

日時・場所：平成29年10月27日(金)、10月31日(火) 春日新田小学校第2多目的室

- 内容：1) 7.11水害、台風21号(H29.10.23)による豪雨・浸水について
2) 上越市ではどのような災害が起きるのだろう
3) 上越市における過去の水害、なぜ関川では洪水が起きるのだろう
4) どうすれば洪水の被害を防ぐことができるのだろう



7.11水害、台風21号による豪雨・浸水について
22年前の7.11水害や最近の台風21号による豪雨で、小学校周辺が水に浸かったことを学習しました。



上越市ではどのような災害が起きるのだろう
上越市では洪水が最も身近な災害であることを学習しました。



上越市における過去の水害
上越市は7.11水害など、何度も水害の被害を受けてきたことを学習しました。



なぜ関川では洪水が起きるのだろう
全国の年間降水量を学習し、上越市の年間降水量は東京の約2倍の約2800mmもあることが分かりました。



なぜ関川では洪水が起きるのだろう
模型を用いて高田平野のなりたちを学習しました。私たちが暮らす高田平野は洪水が運んだ土砂でつくられた土地で、洪水が起き易いことが分かりました。



パネル展示
今から22年前に発生した7.11水害や、関川に棲む魚・動物・植物に関するパネルを学習しました。

第2回「川の防災に関する現地学習」実施結果

日時・場所：平成29年11月2日(木)、11月9日(木) ※現地見学ルートは別紙-1のとおり

- 内容：1) 洪水時の危ない場所、避難場所を現地見学
2) 地元の水害体験者より7.11水害当時の様子、昔の川の様子を聞き取り
3) 洪水などに備えた関川の施設を現地見学
4) 宿題の説明



洪水時に見えなくなる危ない場所（縁石）

道路脇にある縁石は、洪水時には濁った水で見えなくなるため、つまづかないように気をつけることを学習しました。



安江2丁目交差点の7.11水害の水位標

7.11水害では、戸野目川の水位が高くなり、交差点では子供たちの腰位の深さ(約75cm)まで浸水したことを学習しました。



洪水に水深が深くなり時危ない場所（水田）

道路より低くなっている水田は、洪水時には道路より水深が深くなって危ないことを学習しました。



地元の水害体験者より7.11水害当時の様子を聞き取り（松村橋）

7.11水害当時の松村橋は、低い吊橋で戸野目川の上流から流れてきた材木などがひっかかり、危険でした。水害後に現在の橋に架け替え、堤防を嵩上げし、以前より安全になったことを学習しました。



地元の水害体験者より7.11水害当時の様子を聞き取り（松村新田）

7.11水害では、住民が戸野目川の堤防に土のうを積んだが、泥水が堤防を乗り越えて住宅地に入ってきたことを学習しました。



春日新田地区の7.11水害の水位痕跡

春日新田住宅内ある7.11水害の水位痕跡を確認して、側溝の深さと合わせると約110cmにもなり洪水時、道路脇の側溝は危険であることを学習しました。

小学校の学習支援 『川学習の出前講座』



見学ルート⑧

洪水時の避難場所の確認

外にいる時に洪水になり、近くに避難場所がない場合は、コンクリートの2階建て以上の建物に避難することを学習しました。



見学ルート⑨

洪水時に水かさが増して危ない場所（排水路）

排水路は、洪水時に周りから水が集まり、流れも速くなるため、近づかないようにすることを学習しました。



見学ルート⑩

洪水時に見えなくなり危ない場所 （蓋のない側溝）

道路脇にある蓋のない側溝は、洪水時に濁った水で見えなくなるため、側溝に落ちないように道路の真ん中を歩くことを学習しました。



見学ルート⑪

関川の堤防

堤防の階段に色付けされた黄色、赤色の線によって洪水時に危険な水位を目視できることを学習しました。



見学ルート⑫

春日新田資材倉庫

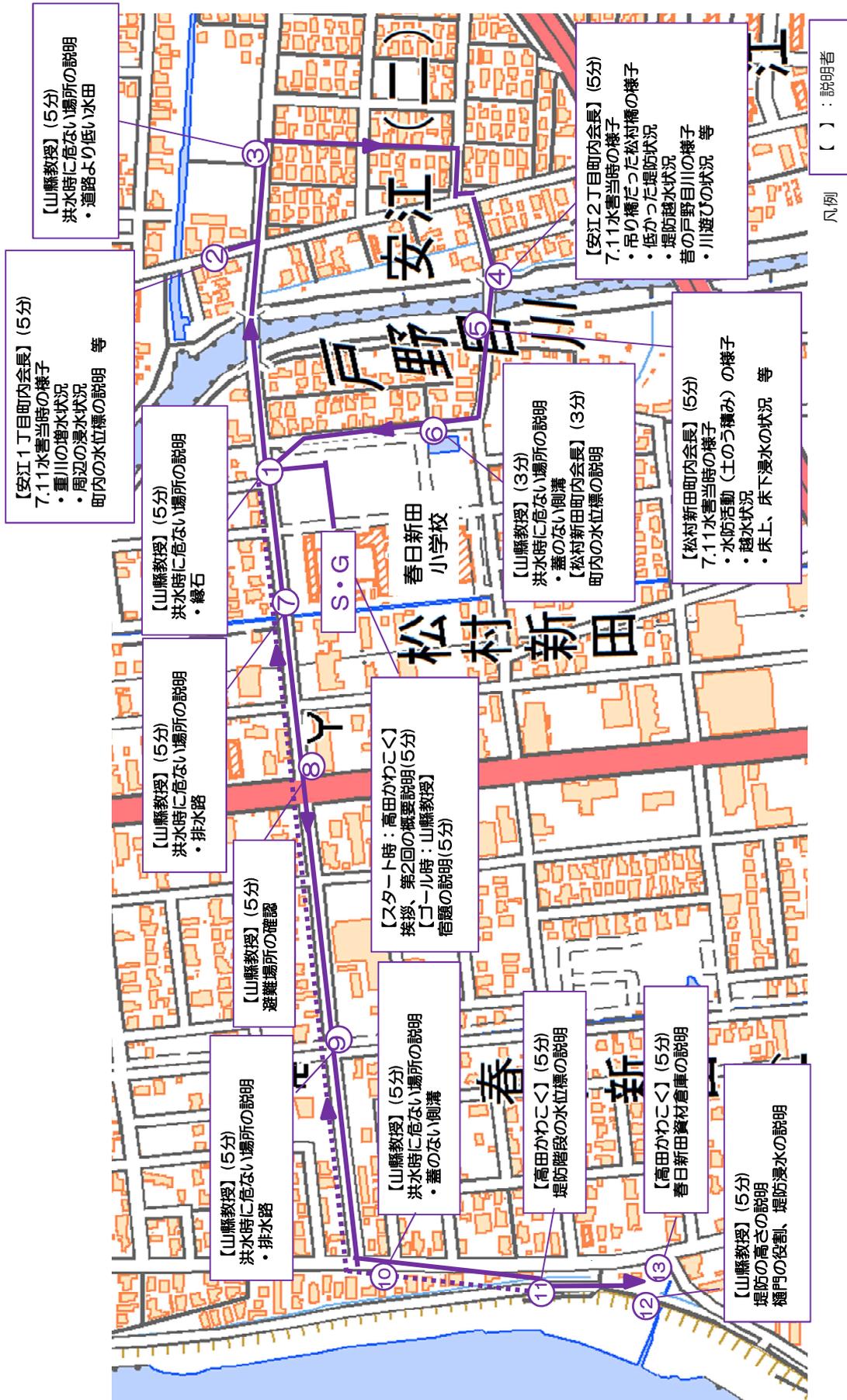
洪水時等に水防団のみなさんが使用する土のう袋やライフジャケット、照明、ゴムボートなどを保管している資材倉庫を見学しました。



宿題の説明

最後に小学校周辺の地図が配布され、次回講座までに「通学路上にある洪水時に危ない場所や避難場所を探してみよう」という宿題が出されました。

第2回「川の防災に関する現地学習」 別紙-1 現地見学ルート



出典：電子国土Web(<http://maps.gsi.go.jp/>) ※下図に電子国土Web地図図を使用して作成

小学校の学習支援『川学習の出前講座』

第3回「川の防災に関する自己学習」実施結果

日時・場所：平成29年11月15日(水)、11月16日(木) 春日新田小学校第2多目的室・4年生教室

- 内容：1) 通学路やその周辺の洪水時に危ない場所や避難場所を地図に整理
2) 7.11水害における小学校周辺の被害
3) 洪水ハザードマップ
4) もし洪水が起きたらどうすればよいのだろう
5) スライド「川は友達」による学習



通学路やその周辺の危ない場所、避難場所
前回の宿題をもとに危険な場所を黄色いふせん、安全な場所を青色いふせんに書き、みんなで地図にまとめました。



みんなで完成させた安全な場所・危険な場所の地図
子供たちが探してきた危ない場所や避難場所が書かれたふせんでいっぱいになりました。



7.11水害における小学校周辺の被害
小学校周辺の地図と7.11水害の浸水範囲を重ねたところ、小学校周辺の広い範囲で浸水したことが分かりました。



洪水ハザードマップ
洪水ハザードマップの浸水想定範囲は、7.11水害の浸水範囲とほぼ一致しており、小学校周辺は広い範囲で浸水する可能性があることを学習しました。



もし洪水が起きたらどうすればよいのだろう
洪水に関する放送に注意する、浸水が始まったら外を歩かない、洪水に備えて家族と話し合っておくなどを学習しました。



スライド「川は友達」による学習
洪水時の川は恐ろしいけれど、普段は美しい景色などを与えてくれる存在であることを学習しました。